

令和6年度
品川区町会・自治会課題解決支援事業
報 告 書

令和7年3月
品川区

目次

序 事業の概要	1
I 町会・自治会伴走型支援プログラム	2
1. 町会・自治会伴走型支援プログラムとは.....	2
(1) 事業概要	2
(2) 令和6年度の支援団体	2
2. 実施概要	3
(1) 西五反田谷山会	3
(2) 品川尚和会	4
(3) 東中延一丁目町会	5
(4) 五反田中部町会	6
(5) 大井鹿島町会	7
(6) 中延五丁目町会	8
II マンションとの関係づくりガイドブックの作成.....	9
1. アンケート調査の実施	9
(1) 調査内容	9
(2) 調査方法	9
(3) 結果概要	9
2. マンションとの関係づくりガイドブックの作成.....	14
3. 説明会の実施	14
III 総括	15
(1) 伴走型支援プログラム	15
(2) 伴走型支援プログラムを通じて見られた課題.....	16
(3) 今後の支援施策の方向性	17
資料編	19
I. 伴走型支援プログラム 関係資料	19
1. 各種説明資料	19
2. 町会個別の資料	23

序 事業の概要

品川区では、平成28年に「品川区町会および自治会の活動活性化の推進に関する条例」を制定し、町会・自治会を「良好な地域コミュニティの維持と形成に関して区と協働する最大の相手方」として、町会・自治会活動への支援を強化してまいりました。令和2・3年度には「町会・自治会活動活性化促進調査」を実施し、条例制定後の町会・自治会の状況と課題を把握しました。また、課題解決に向けた「町会・自治会伴走型支援プログラム」を、令和4年度、令和5年度、令和6年度に実施しました。令和6年度には、町会が、加入促進をはじめとしたマンションとの関係強化を図る際に参考となるような「マンションとの関係づくりガイドブック」を作成しました。

本報告書は、令和6年度に専門コンサルタントとともに実施した「町会・自治会伴走型支援プログラム」及び「マンションとの関係づくりガイドブックの作成」の概要をとりまとめたものです。

I 町会・自治会伴走型支援プログラム

1. 町会・自治会伴走型支援プログラムとは

(1) 事業概要

本事業は令和4年度に開始した、品川区の独自事業です。活動活性化に向けた課題の解決を希望する町会・自治会に対して、専門コンサルタントが相談に乗りながら、ともに課題解決や新たな価値の創造に向けた支援を行うものです。

(2) 令和6年度の支援団体

支援の対象となる町会・自治会は、令和6年4～6月に区が募集し、立候補した町会・自治会を対象としました。令和6年度は、次の6町会への支援を行いました。

西五反田谷山会
五反田中部町会

品川尚和会
大井鹿島町会

東中延一丁目町会
中延五丁目町会

支援プログラムは、担当コンサルタント（株式会社ダイナックス都市環境研究所）が令和6年7月から令和7年3月まで、月に1回程度のペースで出向き、町会ごとに次のステップで実施しました。

ステップ①

個別相談の実施



ステップ②

課題分析し、支援プログラムメニューを提示（複数）

※イベント等実施の際は、品川区や東京都の補助金制度の情報を共有



ステップ③

支援メニューの確定→ゴールに向けた進め方の確認



伴走支援スタート！

※月1回程度の打合せを行い、ゴールに向けて伴走支援

2. 実施概要

(1) 西五反田谷山会

1 課題認識の整理

▲町会費の集金

- ・ 現在、町会費は集金など人手を介して行っている。
- ・ 集金の効率向上のため、キャッシュレス決済等、現状の集金方法以外の手法を検討したい。

▲居住者の顔の見える関係づくり

- ・ 学校選択制となったため、マンションに住む子どもが様々な学校に通うようになり、顔を知らない子どもが増えた。
- ・ 新しく引っ越してきた住民などに、町会へ関わるきっかけを提供したい。

2 解決方法の検討

●町会費の集金方法を検討する場を設定

- ・ キャッシュレス決済等、町会費の集金方法を検討。

●子ども向けの交流イベントの実施

- ・ 子ども向けの交流イベントを実施し、子どもやその保護者と顔見知りになる機会を設ける。参加した保護者には、ゆくゆくは町会活動に関わってもらえるよう働きかける。
- ・ 今後も継続的に実施するためのアンケート調査を実施。

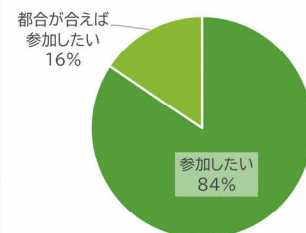
3 解決に向けた行動

◎町会費の集金方法の検討

- ・ 銀行振込やキャッシュレス決済等の町会費の支払い方法について、情報を提供。

◎子ども向けクリスマスイベントの実施

- ・ 子ども向けクリスマス会を実施。子どもと保護者80名が参加。
- ・ 参加者向けにアンケートを実施。8割以上が、「同様のイベントがあれば参加したい」と回答。
- ・ 保護者向けの談話スペースも当日用意。参加した保護者と様々な話ができた。



伴走支援で町会の課題を相談する中で、できることとできないことや、他の町会の事例を知ることができた。相談しながら進めることで、取り組み方の整理や、他の町会の成功事例を知り、活動の視点が変わった。事例やチラシの作成方法など、ノウハウをいろいろと教えてもらい助かった。

町会からの
コメント



(2) 品川尚和会

1 課題認識の整理

▲町会活動の情報発信

- ・月2回実施している回覧板での情報発信に対応できる役員が少なく、準備等の負担が大きい。
- ・回覧板が浸透していないため、新しい時代に即した情報発信をしたい。
- ・新しい広報ツールの導入にあたり、会長だけでなく、町会役員であればだれでも発信できるようにしたい。



2 解決方法の検討

●デジタルを用いた町会の情報発信の検討

- ・幅広い世代に情報発信をするため、デジタルの活用を検討する。
- ・回覧板での情報発信の回数と量を減らし、負担を軽減する。



3 解決に向けた行動

◎SNS導入の検討

- ・SNSを用いた情報発信を検討。
- ・各種SNSの特徴を踏まえ、どのSNSを試行するかを検討。

◎LINE公式アカウントの勉強会の実施

- ・有志で、LINE公式アカウントの勉強会を実施。受信、発信を試し、町会内でどのように活用できるかを検討。

◎LINE公式アカウントの試験運用

- ・町会内で、LINE公式アカウントを試作。1年間試験的に運用し、導入を検討。
- ・あわせて、近隣の学校PTAとの連携を模索。



町内会回覧板など昔ながらの方法しかなく、工数もかかり、回覧板を回しても見ずにただ回すだけで情報がうまく伝わらない事で、何かよい方法はないかと模索していたところ、伴走型支援プログラムでサポートしていただき公式LINEアカウントの紹介、開設のご指導をいただきました。
町会役員によるアカウント登録の試験活用から今後、全会員に向けての本格活用を目指し、回覧板の工数削減と情報伝達の向上を目指していきたいと思えます。

町会からの
コメント



(3) 東中延一丁目町会

1 課題認識の整理

▲マンション居住者との交流

- ・ 町会に加入しているマンションと接点が無い。
- ・ イベント実施時、マンションからの参加者が集まりにくい。

▲担い手不足

- ・ 特にコロナ禍以降、40～50代の役員が減少。イベントの参加人数も減少。

▲情報発信の手法

- ・ 個人情報の兼ね合いから、HPや回覧板での周知に留まっている。
(デジタルツールの使用はしていない)



2 解決方法の検討

●マンション居住者の実態・ニーズを把握する

- ・ 町会で実施するアンケートに合わせて、町会員の属性や情報発信等のニーズについて把握する。

●ファミリー世帯マンションと接点づくり

- ・ 防災を切り口としてマンションに働きかけ、マンションとの接点をつくる。



3 解決に向けた行動

◎マンションと連携した防災訓練の実施-1

- ・ 役員で防災グループを設け、防災をテーマとしたイベントを企画。(安否確認訓練)

◎マンションと連携した防災訓練の実施-2

- ・ マンションと繋がりのある役員を通じてマンション管理組合理事長に訓練参加を依頼。
- ・ マンション1棟が参加した安否確認訓練を実施。



◎訓練の案内とアンケートの実施

- ・ 安否確認訓練の案内に回答者の属性に加え、現在及び今後希望する町会情報の受取方法について意向調査を実施。
- ・ 安否確認訓練当日の運営にお手伝いいただける方を募集。

2年前に町会員と加入マンションにお届けした、安否確認タオルを用いた訓練と事前アンケート調査を実施することで課題解決の糸口になったかと思います。アンケート調査結果は今後の町会運営・防災計画などの検討時に貴重なデータとなり、安否確認タオルを用いた訓練手法は今後マンションとの繋がりを図る上で便利なツールになると思いますので、更にブラッシュアップを続けてまいります。

町会からの
コメント



(4) 五反田中部町会

1 課題認識の整理

▲近隣町会で連携した町会活動の実施

- ・ 役員の高齢化と人員不足が近隣町会の共通の課題。新しい住民の方を含めて町会福祉活動の参加者を増やすため、同じ課題を持つ町会同士連携し情報発信をする必要がある。
- ・ 町会加入に向けた情報発信を行いたいが、単独の町会では発信できる情報に限りがあり、定期的な情報発信が困難。
- ・ 昨年度の伴走型支援で、LINE公式アカウントの導入を検討。運用に向けた具体的な動きが必要。

2 解決方法の検討

●LINE公式アカウントを用いた町会の情報発信の実施

- ・ 町会活動に参加するきっかけづくりや、町会活動に興味を持ってもらうためのきっかけの提供。
- ・ 近隣町会と連携した複数町会合同による、町会区域を横断した活動の実施。

3 解決に向けた行動

◎近隣町会との合同LINE公式アカウントによる情報発信

- ・ 地域住民、在勤者に町会や東五反田エリアに興味を持ってもらうきっかけと、今後近隣町会同士で協力・連携するための基として、LINE公式アカウントを用いた情報発信を開始。
- ・ 町会内だけではなく、活動に賛同した近隣町会に関する情報も発信。
- ・ LINE公式アカウントでの情報発信をきっかけに、他の町会業務も複数町会で横断的に実施することを、今後も引き続き検討。



東五反田コミュニティ・サークルのLINE公式アカウントは、右のQRコードからご登録いただけます。
ぜひご登録ください。



町会会員以外の住民の方に活動を目に見える形で共有していただける手法の模索に一年以上にわたる打ち合わせで、アドバイザーというより、パートナーといった方が適切な程協力頂いた。一度のイベント的な物でなく、持続可能な発信が出来、それが地域に広がる可能性を持たすことが出来る仕掛けを構築するというのがテーマであった。参加する町会との連携や活動参加者の掘り起こしなど、課題は残るため引き続きの支援は必要ではあるが、アカウント登録者数増加など、少しずつ反響が見られるのは喜ばしい。まずは区の支援プログラムに感謝である。

町会からの
コメント



(5) 大井鹿島町会

1 課題認識の整理

▲イベントの質の維持と役員の負担軽減

- ・昨年度の伴走型支援で実施した「全世帯向けアンケート調査結果」を踏まえ、町会として何が出来るのか。(特に若い世代を巻き込みたい)
- ・イベントの質は担保したい一方で、イベントの準備や当日の運営等における役員の負担感がある。

▲町会活動が見えにくい

- ・町会区域が比較的広く、どこに何があるか以前から見える化したいと考えていた。



2 解決方法の検討

●サポーター制度の仕組みづくり

- ・3月にお花見を実施することを目標に、サポーター制度の仕組みを検討。
- ・町会加入や役員になることを前提とせず、町会活動に関わるきっかけをつくる。
- ・サポーターと一緒に活動することで、役員の負担感を軽減させる。

●町会活動の周知

- ・町会マップを作成し、町会にちなんだスポット(掲示板、避難所、町会会館等)を示すことで、町会活動の周知にもつなげる。
- ・町会活動の効果的な情報発信の検討。



3 解決に向けた行動

◎サポーター制度の仕組みづくり

- ・町会として目指したいサポーター制度を話し合い、仮案を作成。
- ・サポーター制度のお試し導入として、11月にこどもまつりを実施。(チラシ案作成、防災ブースの支援)
- ・振り返りを行い、よりよいサポーター制度を思案。
- ・サポーター制度の本格導入に向けて、ホームページを修正。
- ・3月にさくらまつりを実施し、サポーター制度を本格導入。

◎町会マップの作成

- ・町会マップに載せたい情報を整理。
- ・試作を重ね、提供後にも町会の役員自身で編集できるように作成し、ホームページやイベント時に活用。



町会ではこのサポーター形式を「もりあげ隊」と称し、参加を呼び掛けたところ事業を行うたびに参加者が増え大変喜んでおります。今後は量的・質的な充実を図り活性化した地域づくりを進めていきたいと考えています。また「町会マップ」も多様に活用でき、町会運営のツールとして大いに役立っています。支援メンバーと調整を進める段階で既存の役員が活性化した事も大きな成果です。

町会からの
コメント



(6) 中延五丁目町会

1 課題認識の整理

▲町会活動の情報発信

- ・昨年度の伴走型支援で町会のInstagramを開設し、町会員向けに活用方法の講習会を2月に実施したが、町会のみで活用するのが困難であった。

▲町会活動の電子化

- ・町会関連の書類を電子化し、役員でデータを共有できるようにしたい。
- ・イベント時の申込方法を電子化したい。

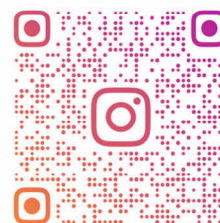
2 解決方法の検討

●町会活動の情報発信

- ・町会Instagramの活用支援。
- ・昨年度のフォローアップとして、Instagramの講習会を実施。

●町会活動の電子化

- ・昨年度のフォローアップとして、Googleを使った管理方法の検討。



NAKANOBUGOCHOUME

町会Instagramはこちら

3 解決に向けた行動

◎使い方マニュアルの作成

- ・町会員の役員向けに、Instagramの操作が初心者でも分かるような使い方マニュアルを作成。

フィード（通常投稿）の手順



◎講習会の実施

- ・町会役員向けにInstagram講習会を実施。
- ・昨年度に実施した講習会の内容を復習するとともに、使い方マニュアルをもとに参加者自ら投稿。
- ・講習会後もInstagramの操作方法や投稿の仕方など、個別にフォロー。

◎町会活動の申込方法の電子化

- ・Googleフォームを活用し、イベント時の申込フォームを作成。

当町会の役員には、使い方マニュアルによる集合研修に加えて、役員個別への繰返しの支援が必要であるが、これを行うことが出来なかった。
次年度以降も継続して対応する必要があるので、引き続き支援をしていただきたい。

町会からの
コメント



Ⅱ マンションとの関係づくりガイドブックの作成

1. アンケート調査の実施

(1) 調査内容

マンションと良好な関係づくりを構築している区内町会の事例をガイドブックに掲載することを目的に、アンケート調査項目を設定しました。

(2) 調査方法

区内の全町会・自治会を対象に、町会と、マンション等集合住宅単独で構成している自治会に分け、設問内容を変えてアンケートを実施しました。

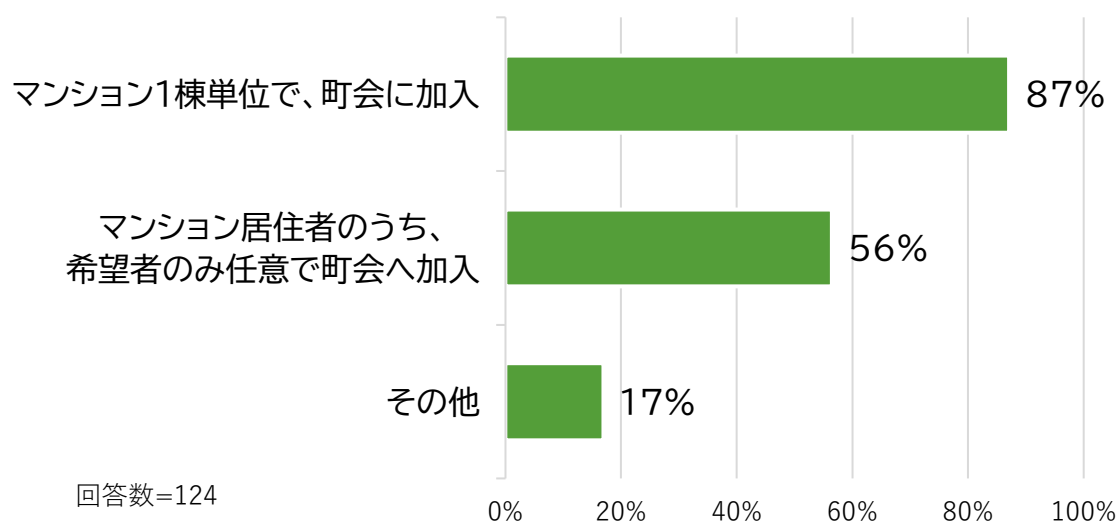
各地域センターから町会・自治会に向けアンケートを送付し、地域センターでアンケート回収を行いました。

(3) 結果概要

調査期間	令和6年7月18日(木)～9月6日(金)	
配布数	201	
回答数	町会	128
	自治会	18
	合計	146
回答率	72.6%	

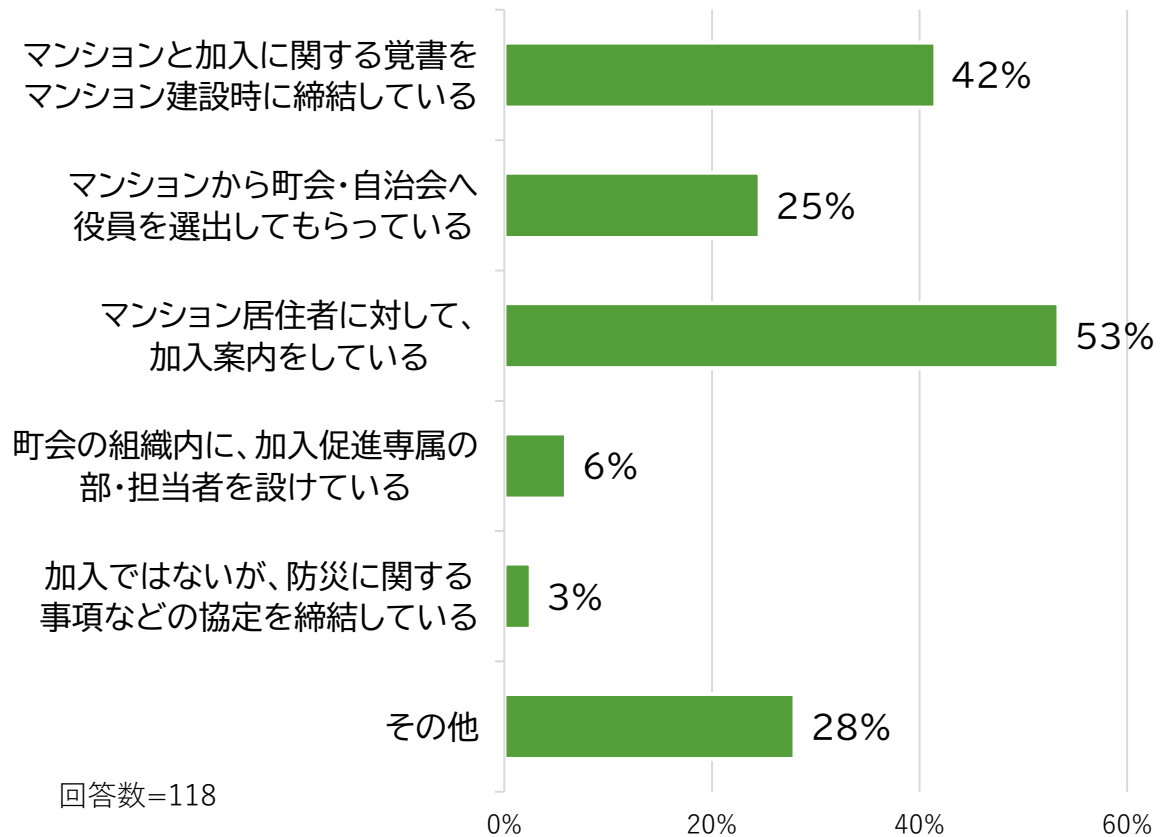
(3) - 1 町会向けアンケート結果

① マンションの加入状況について（複数回答）

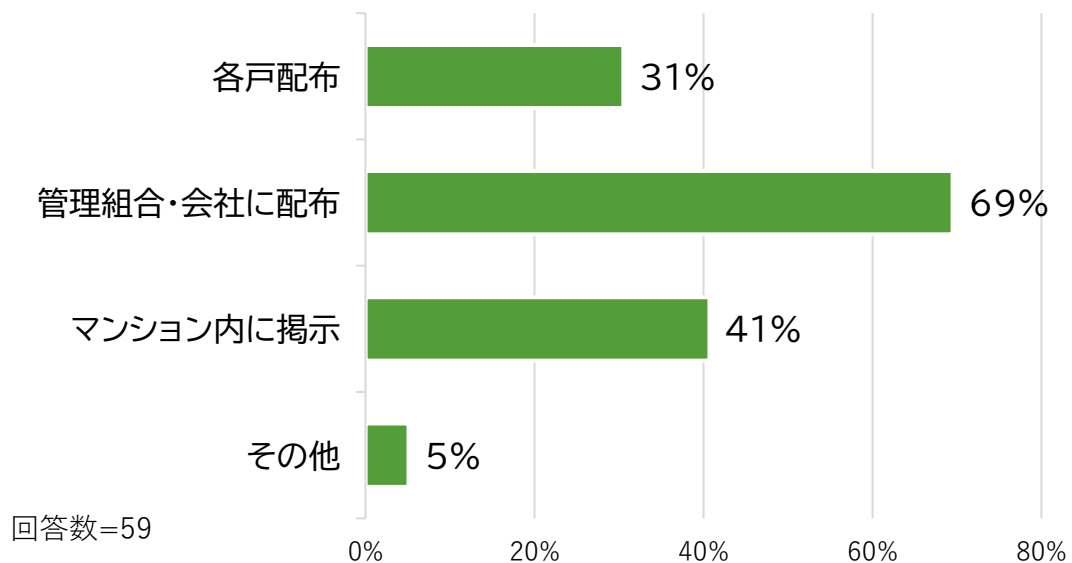


② マンションに対する町会加入の取り組みについて（複数回答）

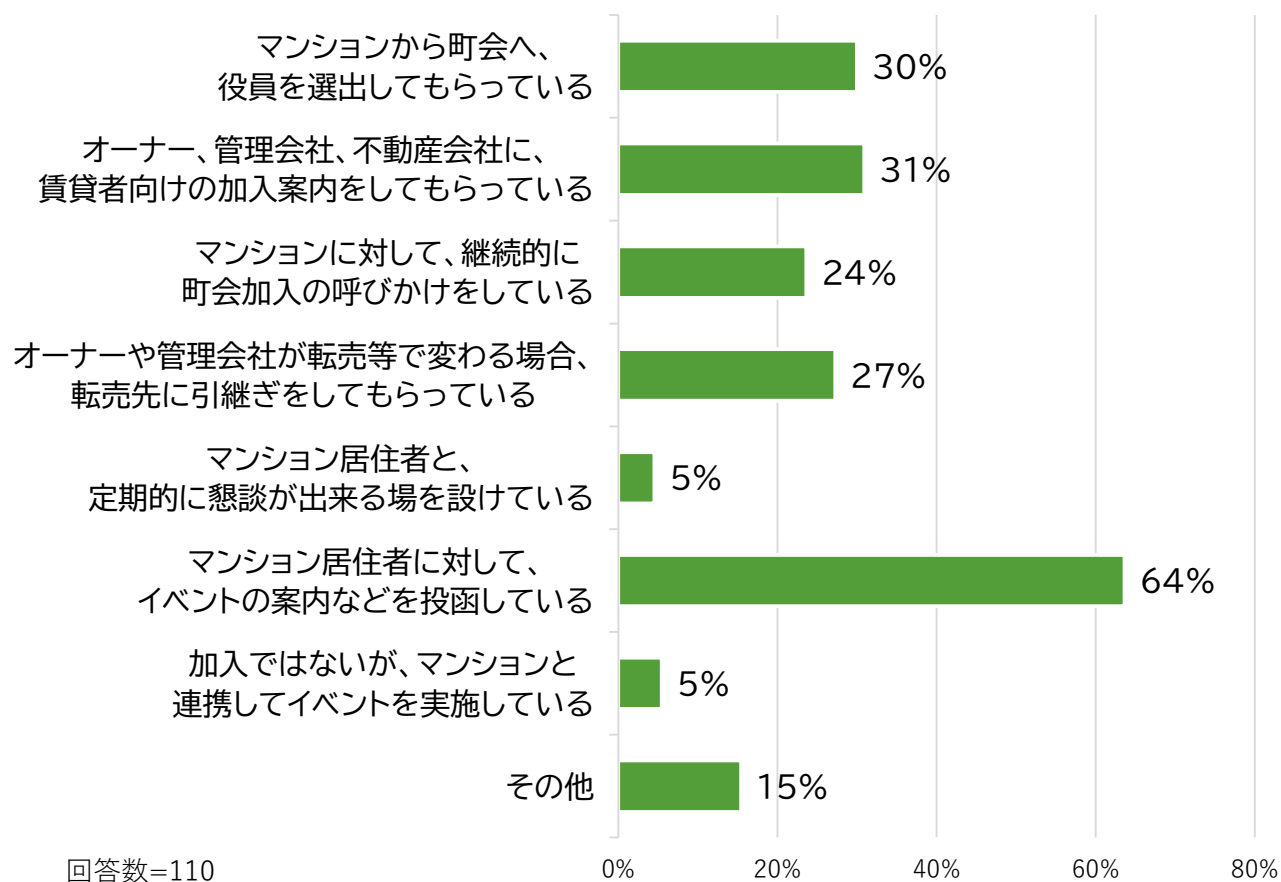
②-1 新築マンションへのアプローチの方法



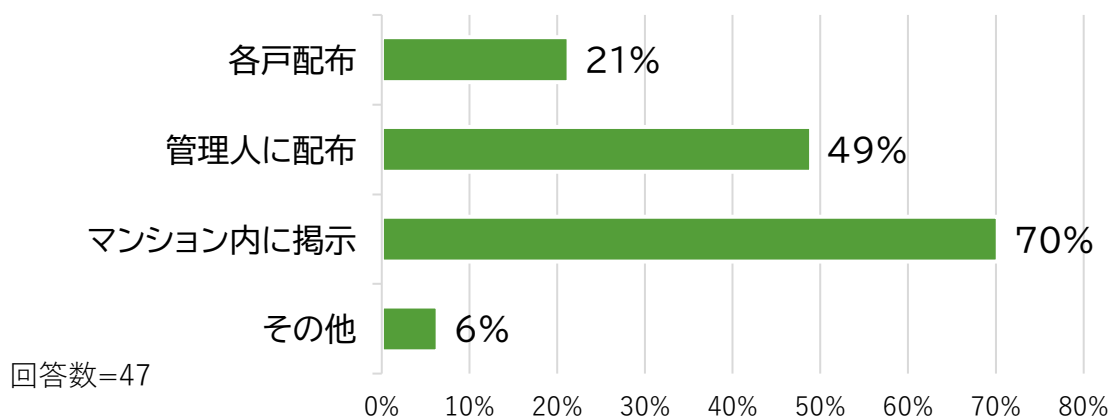
②-2 新築マンション居住者に対する加入案内の方法（複数回答）



②-3 既存マンションへのアプローチの方法（複数回答）

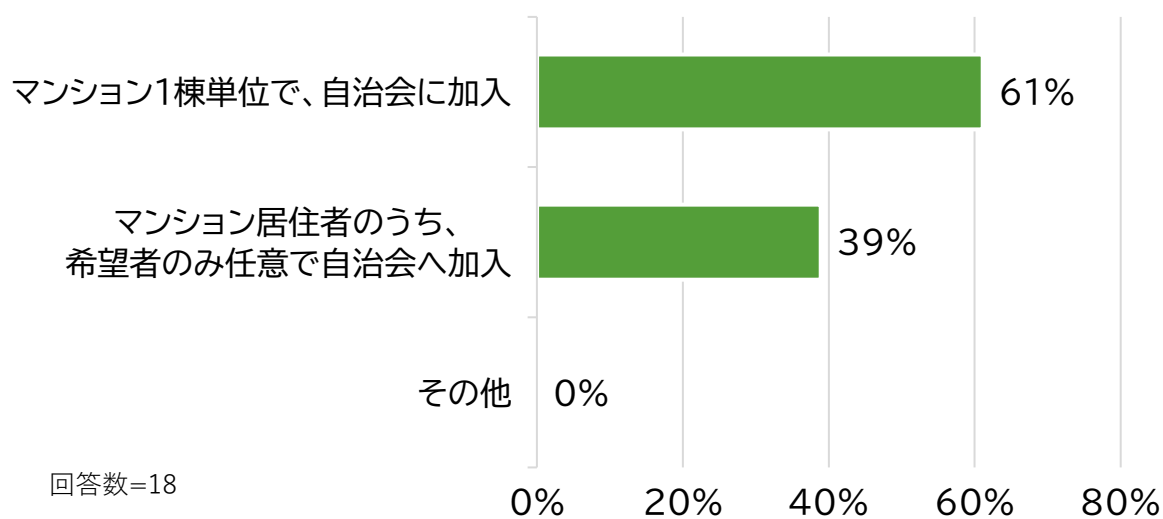


②-4 既存マンション居住者に対する加入案内の方法（複数回答）

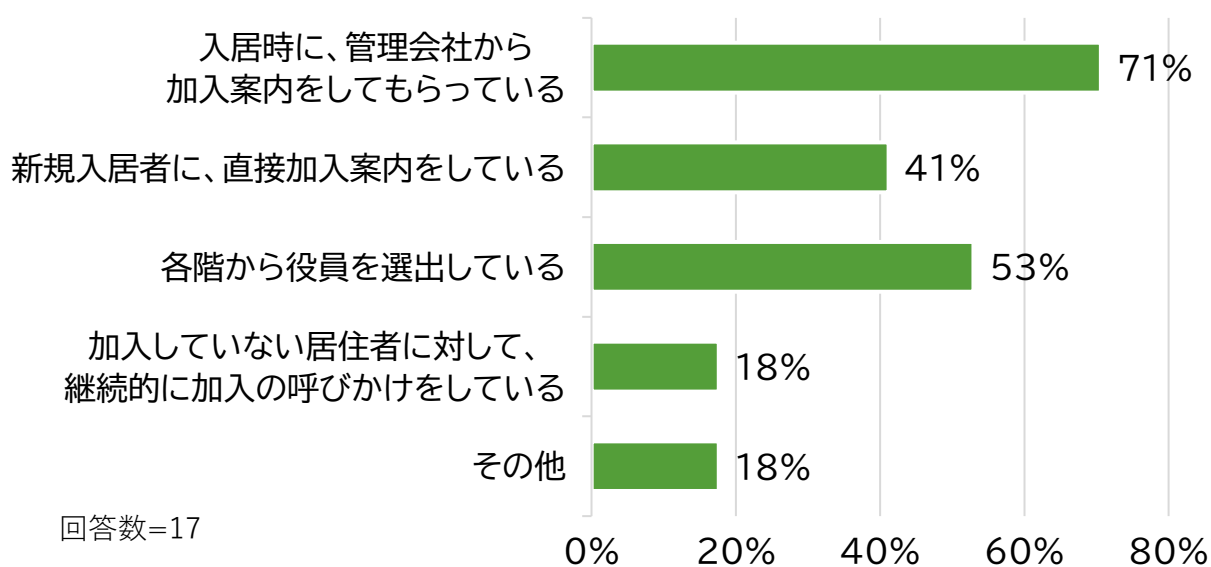


(3) - 2 自治会向けアンケート結果

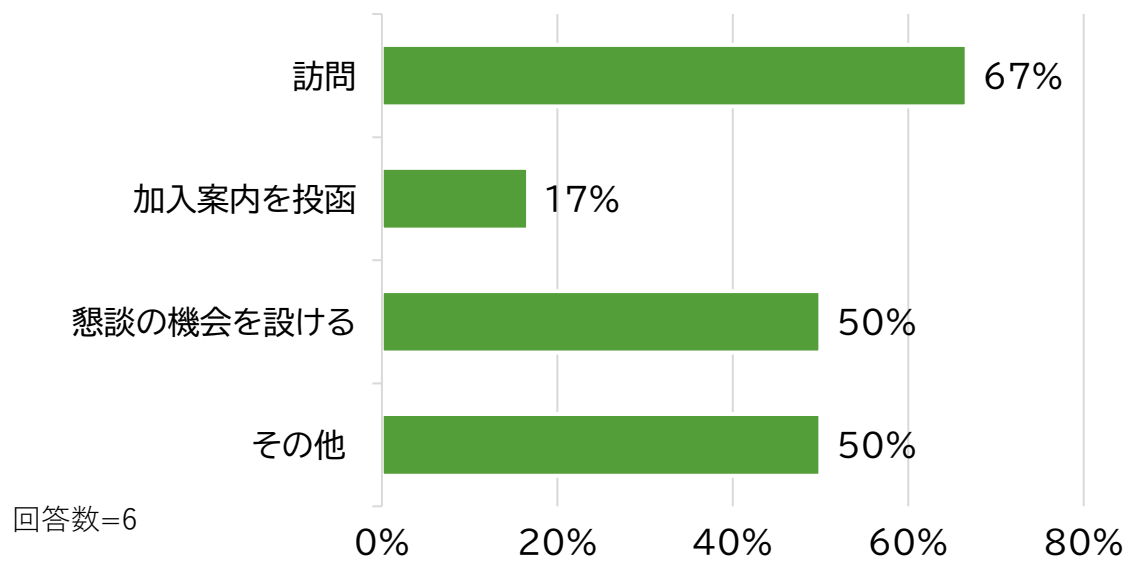
① 自治会内の加入状況について



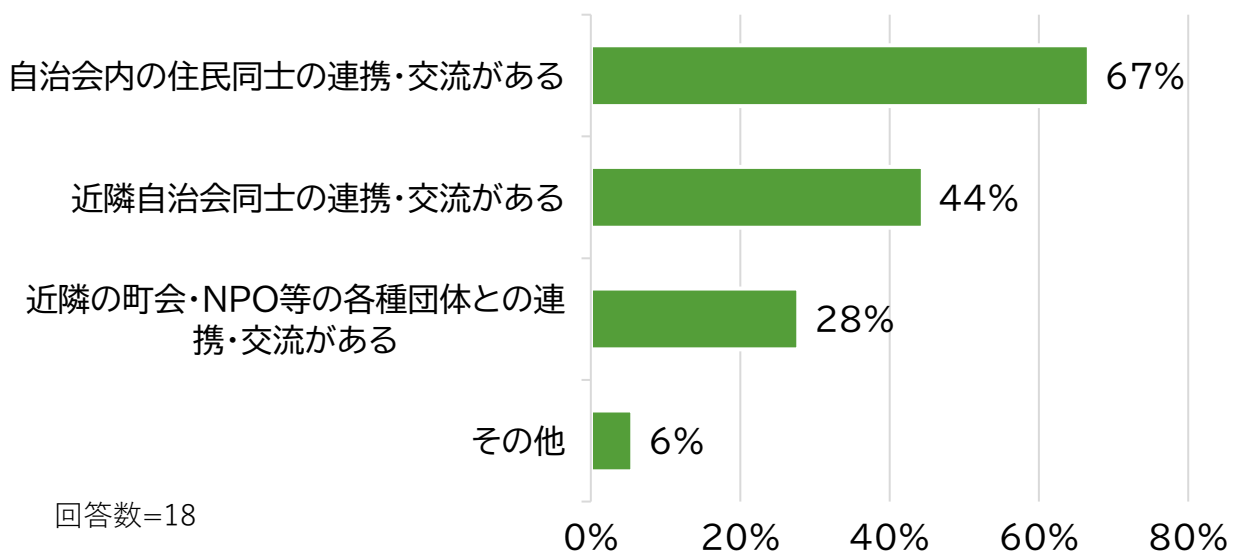
②-1 自治会内での加入促進の取り組み（複数回答）



②-2 新規入居者への加入案内の方法（複数回答）



③ 自治会の交流・連携について（複数回答）



2. マンションとの関係づくりガイドブックの作成

アンケート結果において、複数の項目に回答のあった町会を中心に、マンションとの関係づくりの具体的な取り組み内容に対してヒアリングを行いました。

ヒアリング内容を参考に、「マンションとの関係づくりガイドブック」を作成しました。

3. 説明会の実施

作成した「マンションとの関係づくりガイドブック」の内容についての説明会を開催しました。開催概要は次のとおりです。

タイトル	マンションとの関係づくりガイドブック説明会	
日時	令和7年3月10日（月） 午後2時00分～3時15分	
場所	品川区役所 第二庁舎6階 261・262 会議室	
参加者	説明者：ダイナックス都市環境研究所 北坂容子 町会・自治会参加者：約60名 （事務局） 品川区地域活動課：7人（内、品川区地域センター職員4人） 株式会社ダイナックス都市環境研究所：2人	
内容	町会がマンションと関係づくりを進める際の参考となる事例をガイドブックとして冊子にまとめた、「マンションとの関係づくりガイドブック」について説明	
	時間	内容
	14:00	開会挨拶 ・区担当者からの挨拶、説明会の趣旨を説明。
	14:05	アンケート結果の共有 ・ガイドブック作成にあたり実施した町会・自治会向けアンケートの結果を共有。
	14:15	「町会向けマンションとの関係づくりガイドブック」の紹介 ・ガイドブックの内容説明。
	14:50	質疑
	15:15	閉会

当日の様子



Ⅲ 総括

(1) 伴走型支援プログラム

令和6年度支援を実施した6団体において、以下のとおり課題と支援メニューを整理した。

類似する課題もいくつかあった一方で、町会が直面している課題は多岐に渡っており、それぞれの町会に対して個別の支援メニューを提案・実施した。

町会名	課題	支援メニュー
西五反田谷山会	・町会費の集金 ・居住者の顔の見える関係づくり	・町会費集金方法の検討 ・子ども向けクリスマスイベントの実施
品川尚和会	・町会活動の情報発信	・SNS 導入の検討 ・LINE 公式アカウントの勉強会の実施 ・LINE 公式アカウントの試験運用
東中延一丁目町会	・マンション居住者との交流 ・担い手不足 ・情報発信の手法	・マンションと連携した防災訓練の実施 ・訓練の案内とアンケートの実施
五反田中部町会	・近隣町会で連携した町会活動の実施	・近隣町会との合同 LINE 公式アカウントによる情報発信
大井鹿島町会	・イベントの質の維持と役員の負担軽減 ・町会活動が見えにくい	・サポーター制度の仕組みづくり ・町会マップの作成
中延五丁目町会	・町会活動の情報発信 ・町会活動の電子化	・使い方マニュアルの作成 ・講習会の実施 ・町会活動の電子化

(2) 伴走型支援プログラムを通じて見られた課題

① 組織の人手不足

今年度伴走支援を行った町会において、「組織の人手不足」が共通した課題であった。人材不足には社会情勢の変化などが大きく影響しており、町会・自治会活動の自助努力や支援のみで容易に解決するものではない。また人手不足に紐づいて、手を動かす人材の不足や技術・知見を有する人材の不足などの課題も生じている。

② マンションとの関係づくり

今年度、「マンションとの関係づくりガイドブック」作成に向けて、町会・自治会向けにアンケート調査を行った。その結果、マンションへの加入案内やイベント等の周知を行っている町会・自治会は一定数あったものの、それ以外の加入促進への具体的なアプローチの方法においては少ない結果であった。

町会・自治会に対して行ったガイドブックの説明会においても、マンションへの加入促進の働きかけやイベントの参加など、課題が多くあげられていた。

③ デジタルの活用（情報発信・町会費の集金）

町会・自治会活動を見える化することで、町会・自治会の活動や地域に興味を持つ人が少しずつではあるが増えると思われる。そのためには、町会・自治会の活動をより多くの人の目に留まるような工夫が必要となる。多くの人に発信する手法として、SNS（LINE 公式アカウント、LINE オープンチャット、Instagram、Facebook、X（Twitter）等）の活用などが求められるが、SNS の導入や運用のノウハウを有していない町会・自治会が多い。

また、町会費等の集金について、現金での集金を負担に感じている町会があった。効率的な町会運営に向けて、銀行振込やキャッシュレス決済などの導入を検討する必要がある。

④ 地域の多様な団体との関係づくり

NP0、企業、商店街、大学・学校関連など、他団体との連携・交流を実施しようとしている町会・自治会が多いが、連携・交流の手法がわからなかったり、とっかかりとなるネットワークを有していなかったりする。

(3) 今後の支援施策の方向性

① 伴走型支援プログラム

前述の課題を町会・自治会単独で解決するのは困難であり、また一朝一夕で解決できるものではない。本事業のような第三者視点を有する専門家による丁寧な寄り添いを行う伴走型支援によって、町会・自治会が抱える課題を明確にすることが可能となり、限られたリソースで取り組むべき活動に解決すべき課題（解決できる課題）の優先順位もつけることができる。

また、これらの取り組みを好事例として横展開することで、町会・自治会の活動のきっかけにつなげたい。

② マンションとの関係づくり

マンションとの関係づくりを課題と感じる町会は多く、本区の地域特性上、今後もマンション建設そのものやマンション住民の増加が見込まれる。

今年度作成した「マンションとの関係づくりガイドブック」では、加入促進編及び交流人口編と題し、9つのアプローチの方法を事例とともにとりまとめた。本ガイドブックを参考に、町会が抱えるマンションの加入促進や交流増加等について、課題別に個別支援を展開するなど、引き続きマンションとの関係づくりに対する支援施策を検討する。

③ デジタルの活用

情報発信・収集の手法については、回覧版や掲示板等のアナログな手法と併用して、ホームページやSNS、WEB フォーム等のオンラインツールを導入するなど、デジタルな手法を取り入れる必要がある。

町会費の集金方法についても同様に、現金でのアナログな集金方法から、キャッシュレス化等のデジタルな集金方法について検討している町会・自治会がある。今後各ツールに関するマニュアルを作成し、配布するなど、更なるデジタル化に向けた支援施策を検討する。

④ 地域の多様な団体との連携強化

町会・自治会単独で多様化している社会課題に対応することは困難であるため、前述のとおり町会・自治会やマンション住民を含めた他団体との連携・交流を行い、ステークホルダーごとの専門性を活かしながら、地域の課題解決に取り組むことが望ましい。

これまでの町会・自治会という枠組みや概念を超えて、例えば町会・自治会単独のリソースだけでなく、隣接する町会・自治会や NP0、企業、商店街、大学・学校関連などさまざまな主体と連携しながら、「子ども」「防災」「防犯」「福祉」など、関心度が高いと考えられる活動を、共に実施している町会・自治会がある。

他組織との連携・交流を行うための第一歩として、これまで区で実施した交流会や好事例であがったようなノウハウを、それぞれの町会・自治会の実情に合うような形で模倣したり、連携・交流について町会・自治会内で話し合う機会を設けたりすることが望ましい。

区としては町会・自治会が地域の多様な団体と連携して実施する事業を支援し、地域団体同士で顔の見える関係を構築することにより、町会・自治会活動の担い手の確保や活動の更なる活性化を目指す。

前述の①から④の支援施策を進めることにより、町会・自治会への加入促進を図り、多くの町会・自治会が抱える「組織の人手不足」に対応する。

また、会員の枠組みを広げるために、準会員制度やサポーター制度など、町会に加入せずとも活動に関わることでできる新たな関わり方も、町会・自治会の間で広まりつつある。地域のいろいろな人が関わられるような行事の実施・周知を継続的に行い、町会・自治会に関わる機会を作り、町会・自治会の存在を住民に認知してもらう必要がある。

このように、ライフスタイルにあった運営方法についてどのような支援策が講じられるか、専門家等と相談しながら検討を進め、町会・自治会の活動を持続可能なものにすることが重要である。

資料編

I. 伴走型支援プログラム 関係資料

1. 各種説明資料

(1) LINE ツールの説明

LINE公式アカウントとは？

L LINE公式アカウント

- お店や企業、自治体などの
団体・組織が運営するLINEアカウント
- お店や企業の**ファン**が、「この団体・組織の情報がほしい」と思い、LINEをつかって登録する

【できること】

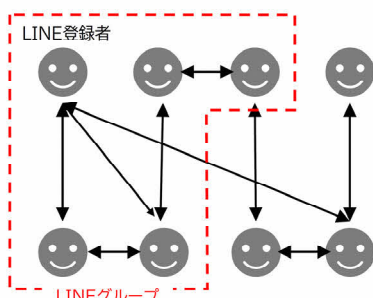
- アカウントに**登録した人への情報発信**(文言、画像)
- LINEを使っている方に対して、**町会のお知らせやイベントの情報など**を発信することができます。
- 団体・組織のページへの誘導(ホームページ、Facebookページ等)
- 問い合わせなどへの、チャットでの応答(電話番号などを知らない人でも町会に問い合わせをすることができます)
- (注意)LINEを使っていない方もいるので、**回覧板、掲示板を使って補う**が必要です。

4

LINE と LINEオープンチャット と LINE公式アカウントの違い

LINE(個人アカウント)

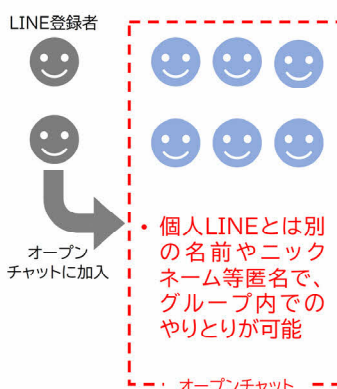
- 個人と個人 のやりとり



- 複数人でグループをつくって行うやりとりがLINEグループ。

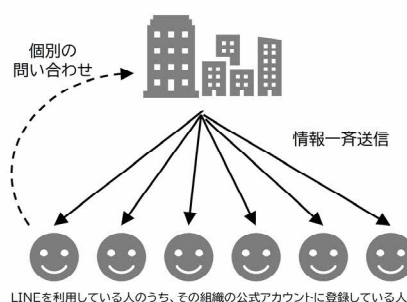
LINEオープンチャット

- 特定のグループにおける個人と個人 のやりとり



L LINE公式アカウント

- 組織と個人 のやりとり



- 登録をした人に、組織からのお知らせを一斉に送る。
- 登録した人から組織に問い合わせ(個別の連絡)をすることも可能。

5

※上記は一部ページを抜粋したものです。

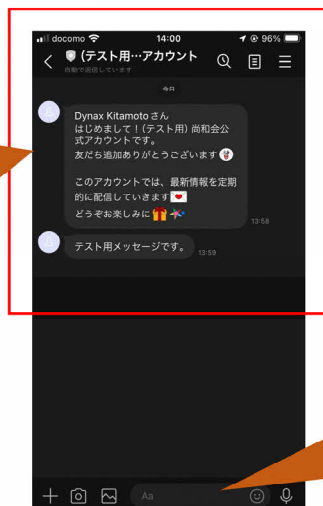
全体版をご入用の場合は、巻末に記載している区担当課宛にご相談ください。

(2) LINE 公式アカウントの使用方法

画面の見方

公式アカウントの登録者(町会会員)には、このように画面が見えます。

町会から送られたメッセージがこのように届きます。



会員からメッセージを送っても、他の会員に見られることはありません。事務局にのみ届きます。

2

管理画面

主に使うのはこの3つ

- ①メッセージ作成、送信
- ②チャット
- ③分析



5

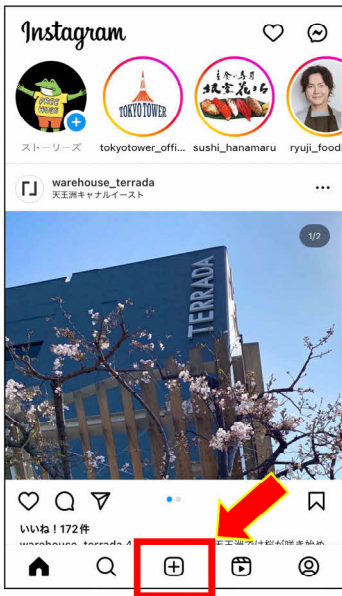
※上記は一部ページを抜粋したものです。

全体版をご入用の場合は、巻末に記載している区担当課宛にご相談ください。

(3) Instagram の使用方法

フィード（通常投稿）の手順

● 画面下の「投稿」アイコンを押す



● 画面下の撮影した写真の中から、投稿したい画像を選ぶ。選んだら「次へ」を押す



📷 を押すと、その場で写真を撮ることもできます⁶

(参考) ハッシュタグについて

ハッシュタグ＝「見出し」機能です

特定の言葉に「#（ハッシュマーク）」をつけることで、同じ興味を持つ人と繋がることができる機能です。

ハッシュタグを投稿に追加することで、そのハッシュタグの単語を検索した人に投稿が表示されるようになります。

【ハッシュタグをつける時の留意点】

- ・ 投稿の内容に関連するハッシュタグをつける
- ・ ハッシュタグには、スペースや句読点を含めることができない
- ・ あまりに多くのハッシュタグを1つの投稿につけると、スパム（迷惑行為に該当する投稿）とみなされることがあるので注意する

#ハンバーグ で検索すると・・・



※上記は一部ページを抜粋したものです。

全体版をご入用の場合は、巻末に記載している区担当課宛にご相談ください。

(4) 町会費の集金方法

「会費」の集金方法

- 直接回収
- 銀行振込
- コンビニ支払い
- クレジットカード決済
- オンライン支払い

- 次のページ以降に、それぞれの集金方法の特徴とデメリットを記載。
- 最も町会や地域に馴染む方法の導入を検討する。

「効率がいい」「手数料が発生」は、直接回収以外
は共通するので省いている

手数料は
「初期利用料金(始めたら支払う)」
「月額利用料金(サービスの月ごとの利用料)」
「決済手数料(支払い利用ごとの手数料)」
の3つがあり、手法、サービスによって支払い有
無や金額、%が異なる

2

③クレジットカード (サブスクリプション支払い)

【特徴】

- 自動的に引き落とされるので、登録をすれば支払い忘れが発生しない
- 安定した会費(≒財源)確保につながる
- 支払記録は店舗側に届くので、デジタルで町会費管理ができる

【デメリット】

- オンラインでカードや口座の登録を行う必要があるため、利用者側がやや手間がかかる
- 決済用のWebページやフォームを作る必要がある

6

※上記は一部ページを抜粋したものです。

全体版をご入用の場合は、巻末に記載している区担当課宛にご相談ください。

2. 町会個別の資料

(1) 五反田中部町会 LINE 公式アカウント周知チラシ

東五反田エリアの身近な情報！

東五反田コミュニティ・サークル LINE 公式アカウントはじめました！

東五反田コミュニティ・サークルは、
東五反田の町会合同によるLINE公式アカウントです。
東五反田エリアにお住まいの方、又ご利用の方に
地域限定の情報を月一、二回これから皆さんに発信します。

東五反田コミュニティ・サークルからのお知らせを
ぜひお楽しみに、まずは登録してみてください！



↑登録はこちら！

だんだん こんな情報を届けていきます

- ・ 地元の人のおすすめのお店
- ・ 近所でかかりたい病院について
- ・ このエリアで参加できる催し物、イベント
- ・ 品川区からのお知らせ

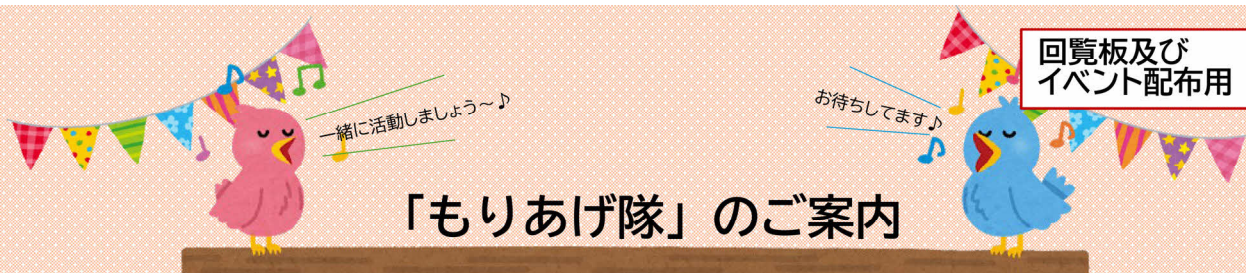
問い合わせ先

メール：xxxxxxxxxxxx@xxx.com

担当：〇〇 〇〇

＊載せたい情報のご提供もお待ちしています

(2) 大井鹿島町会 もりあげ隊募集チラシ



大井鹿島町会では「こどもまつり」や「お花見会」、「餅つき大会」など大井鹿島町会が主催する催しものの企画や運営のサポートをしていただける方を募集しています。大井鹿島町会内または近隣町会内に住む方ならどなたでもご参加いただけます。

申込みされた方は「もりあげ隊」として登録させていただき、「もりあげ隊 LINE グループ」にてサポートいただく案件ごとに日時や内容等をご連絡させていただきます。この案件にお手伝いが可能な方が返信いただくことで、より詳細な内容を打合せし、企画や運営を進めてまいります。お手伝いが不可能な方は返信の必要はありません(LINE グループへの参加は、ご本人の意向を確認した上で、登録をお願いしております)。

皆様方が、町会や地域に親しみや愛着が持てるようこの活動を通じて進めていく所存です。ぜひご協力賜りたく、宜しくお願いいたします。

キリトリ線

お手伝いが可能な方は、以下の必要事項をご記入のうえ町会役員に提出いただくか、右記QRコードを読み取り、専用フォームからお申込みください。

QR
コード

尚、お申込みいただきました内容は、「もりあげ隊」以外には使用いたしませんので、ご安心ください。

申込日：令和 年 月 日 ()

1 お名前 (ふりがな)

2 年齢

3 住所

4 電話番号

5 E-mail アドレス

6 得意分野、お手伝い
したい活動内容

(例：力仕事得意、屋台でやしそばを焼いたことがある、チラシの作成など)

(3) 大井鹿島町会 もりあげ隊参加申し込み案内

掲示板用

地域の活動、はじめてみませんか？
地域をたのしもう！

もりあげ隊 大募集

この度大井鹿島町会では、「もりあげ隊」として、地域と一緒に盛り上げてくれる仲間を大募集することになりました。

皆さんの得意なこと、持っている
スキルを地域に貸してください

しんなことをするの？

- ・イベントの企画
- ・イベント当日の運営補助
- ・情報発信 などなど

一緒に楽しみましょう！

できるときに

できることを

できる分だけ

こんな方にオススメです

- ☒ 地域の人と知り合いたい
- ☒ 子どもが喜ぶ行事に興味がある
- ☒ 地域の活動に参加してみたい
- ☒ 退職してちょっと手があいた
- ☒ この地域が好き



詳細・登録方法

詳細&登録は ▶
または、

大井鹿島町会 🔍 で検索

▼HPIにつながります

QR
コード

お問い合わせ

大井鹿島町会

住所:XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

連絡先:XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

令和6年度
品川区町会・自治会課題解決支援事業 報告書
令和7年3月

発行 品川区地域振興部地域活動課
東京都品川区広町2-1-36
TEL 03-5742-6690（直通）
FAX 03-5742-6877

受託事業者 株式会社ダイナックス都市環境研究所
東京都港区西新橋3-15-12
TEL 03-5402-5355
FAX 03-5402-5350